男 1 主人公。オタサーの姫に好意を寄せている。
姫 オタサーの姫
男 2~4　オタサーのメンバーたち
登場人物皆眼鏡

車の中皆でワイワイしている。
(男 1 の語り）僕の名前は男 1。関東の大学に通うごく普通の大学 2 年生だ。今日は僕の所属するサークル、まぁ俗に言うオタサーの合宿で山中湖に向かっている。この合宿の目的はかの有名ギャルゲー、『くそみそメモリアル』の聖地巡礼である。しかし、僕にはもう一つの目的があるのだ…それは、このオタサーの姫こと姫ちゃんに想いを伝えることだ。1 年の時から積み重ねてきたこの想いをこの合宿で打ち明けたいのだが、どのようにしてタイミングをつかめば良いのだろうか…。

男 3「なんか姫ちゃん顔色悪くない？大丈夫？車酔いしやすい？」
姫「うーん…最近ちょっと風邪気味で…気持ち悪くなってきちゃった…ふええ」
男 2「えっ！大丈夫？！おい、男 4、あとどのくらいで宿つく？」
男 4「んー、ナビだとあと 10 分くらいだ、姫ちゃんあと少しだから頑張って！」
男 1「頑張って！」

宿到着
男 2 が姫を抱えながら降車
男たち「姫ちゃん大丈夫？」
姫「う、うん…」ヨロヨロ
悔しそうに二人を見つめる男 1

宿の男部屋にて
男 1「今日の聖地巡礼①はどうする？姫ちゃんあんな様子だけど」
男 3「姫ちゃんの回復みて、行けそうになったら行こうか」
男 124「そうだな」「だな」
男 4「じゃ、各自自由に過ごそうぜ。おい男 1、カポエイラやろうぜ」
男 1「いいぜ」
カポエイラに励む男 14
ゲームやスマホに打ち込む男 23

しばらくして男 2 が消える
またしばらくする

男３「男２どこいった？」
男４「トイレでしょ」
男３「にしては遅くね？」
男１「たしかに」
男３「姫ちゃんの様子みにいったんじゃ…」
男１「えっ、それはいかん。俺ちょっといってくるわ」
男４「抜け駆けは許せないもんな、頼んだぞ」

男１部屋から出て行く
いろんなところ探して最後に姫部屋のまえにつく　中で物音がする
男１ドアノブに手をかける
男１「姫ちゃ男２「ここ？」ギシギシ
姫「違う、そっちの穴じゃないよっ」
ギョッとする男１「(えっ…？こいつら何やって…えっ…えっ…)」

走って男部屋に戻る男１
男３「おっ、姫ちゃんたちどうだった？」
男１「い、いや...なんかよくわからなかった…。」
男４「なんだよそれ、まあいっか。男１、寝技の練習しようぜ」
男１「い、いいけど…。」

しばらくして男２と姫、男部屋に現れる
男たち「あっ姫ちゃん！」
姫「みんな～ごめんね～！もう姫大丈夫だよ！お待たせしました～ふにゅ～」
男２「今姫ちゃんと話し合ったんだけど、今日はもう時間ないから（地名）をまわるコースにしようと思うんだけど、どう？」
男３「姫ちゃん良くなって良かったわ～！コースはそれでいいと思う！」
男４「初日から激アツコースですな～～↑↑」
動揺しつつもまわりに合わせる男１

巡礼①スタート　一つ目のポイントに到着　はしゃぐ４人
男２「くぅ～～～ここで主人公がトミ子（ヒロイン名）に泣きながら心中を迫られるんだよなー！フウウウ」
姫「心中断ってもバッドエンドなんだよね～、くそメモって難しいよう～」
はしゃぐ男２と姫をみながら悶々とする男１「(姫ちゃんと男２、なにやってたんだろう…。もともとあの二人はよくくっついてるからな～…まさかできてないよな…。)」

男２「おーい！男１！次の美波里（ヒロイン名）とよしみ（ヒロイン名）がタイマンはった空き地に行くぞー！」
男１「お、おう！」

夜　皆で酒盛り中　宿のベランダで一人男１
（男１の語り）結局姫ちゃんと男２の一件についてわからないままだし、そもそも姫ちゃんと二人きりになれないまま夜が来てしまった。どうしよう。今を逃すとすっきりさせる機会がないだろうな。一度男２を呼び出して二人で話をしよう。
突如現れる姫
姫「男１くんっ♪」
男１「わっ！ひ、姫ちゃん！」
姫「どうしたの～？そんなにびっくりして。あのね、姫、男１くんに話があるんだけど」
男１「は、はなし！？（ナ、ナンダッテー）」
姫「うん。話してもいい？」
男１「う、うん（ワクワク）」
姫「男１くんはこのサークルのみんなのこと大好き？」
男１「うん！もちろん！」
姫「よかった！今日の合宿みたいに、みんなでいっしょに行動したり生活したりするのも楽しいと思う？」
男１「うん！楽しかったよ！」
姫「そっか！あの、ちょっと言いづらいんだけどね、その…男１くんのおうちの合鍵が欲しいの。」
男１「ナ、ナンダッテー！！！」
姫「だめかな…？ふええ…」
男１「い、いいよ！いいけど、そんな、なんｄ」
姫「いいの！よかった！おやすみなさい～」姫去る
男１「えっ、あれ？」

まだベランダ男１
（男１の語り）よくわからないけど姫ちゃんが俺の合鍵を欲している…？一体これは何を意味しているんだろうか。もしかして、ワンチャン…？
男２現れる
男２「よっ、男１。一人で何やってんだよ～中で飲もうぜ～。」男１の肩を組む
男１「おっ、おう。なんだやたら機嫌いいな。」
男２「だってお前～、合鍵作ってくれるんだろ？も～うれしくって」
男１「はっ！？何で知ってるんだよ！？てかお前にじゃないし」

男２「俺が姫ちゃんに頼んで合鍵作るようにお願いしてもらったんだよ。聞いてるかもしれないけど俺、お前に本気だから。ちょっと強引な手を使ったけど、合鍵でお前んちいつでも行けるようにして、掃除して洗濯して料理作ってやりたいんだ。」
男１「ナ、ナンダッテーーーーーー！！！！！！」
男２「姫ちゃんに頼んで言ってもらったのは悪いと思ってるよ。」
男１「えっ、いや、でもお前姫ちゃんのこと好きじゃないのかよ、てか宿着いたあと姫ちゃんの部屋で何してたんだよ！！」
男２「姫ちゃんによく相談に乗ってもらってたんだ。姫ちゃんの部屋？ああ、スマホの充電器忘れちゃったから、姫ちゃんのところで充電させてもらってた。」
男１「(穴ってコンセントのことかーーーー)」
男２「まあそういうわけだから。お前のこと、あきらめないからな。（舌なめずり）」

おしまい